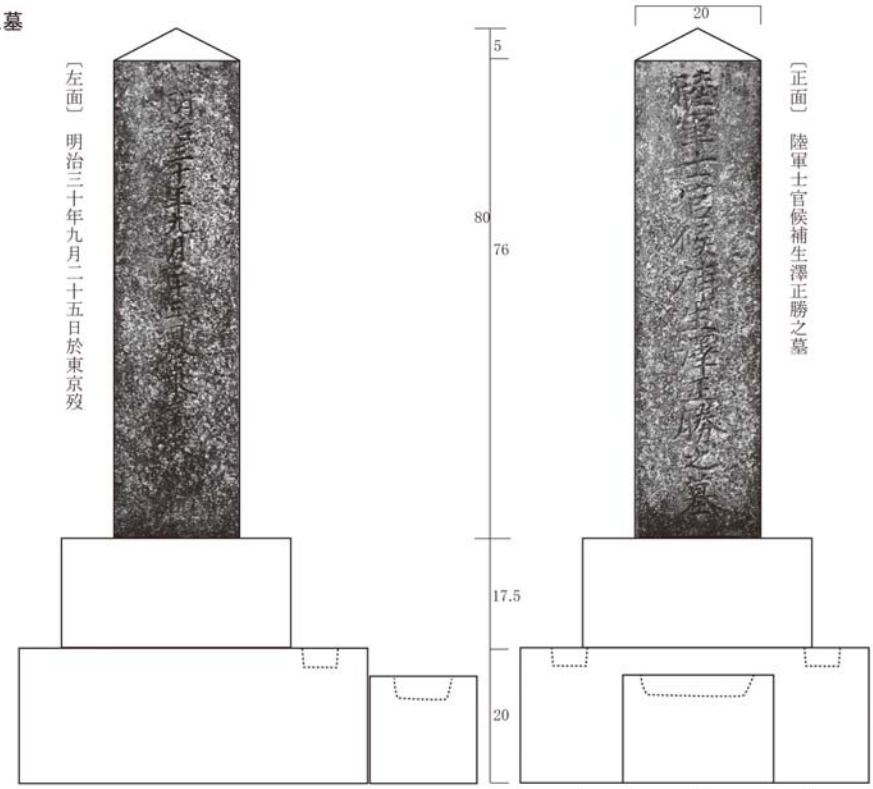
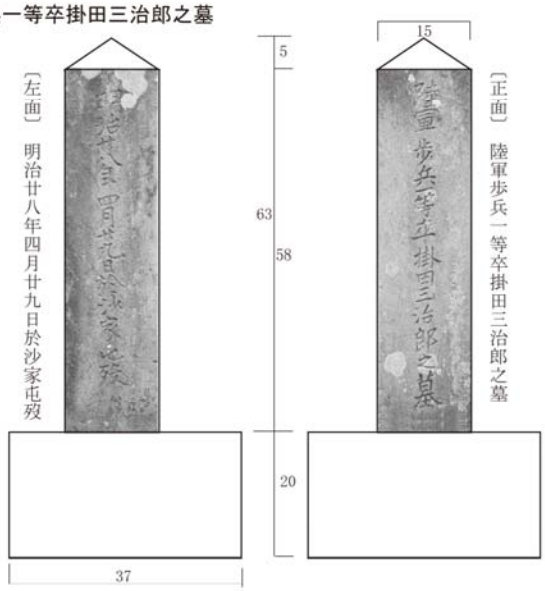
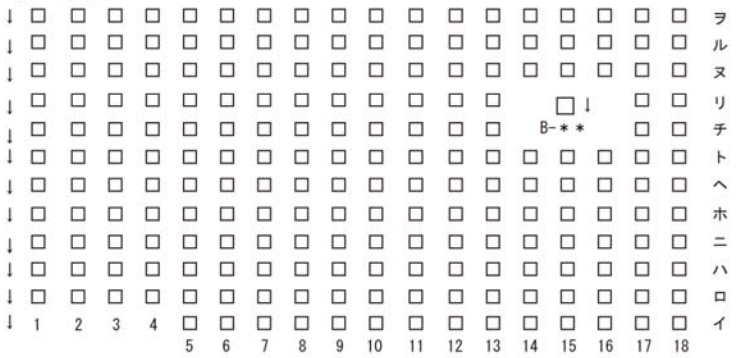
B-＊-＊　陸軍士官候補生澤正勝之墓



B-ヌ-16　陸軍歩兵一等卒掛田三治郎之墓



B区の配置



〔凡例〕
矢印　碑身正面の方向

図3 B区の配置と墓碑例

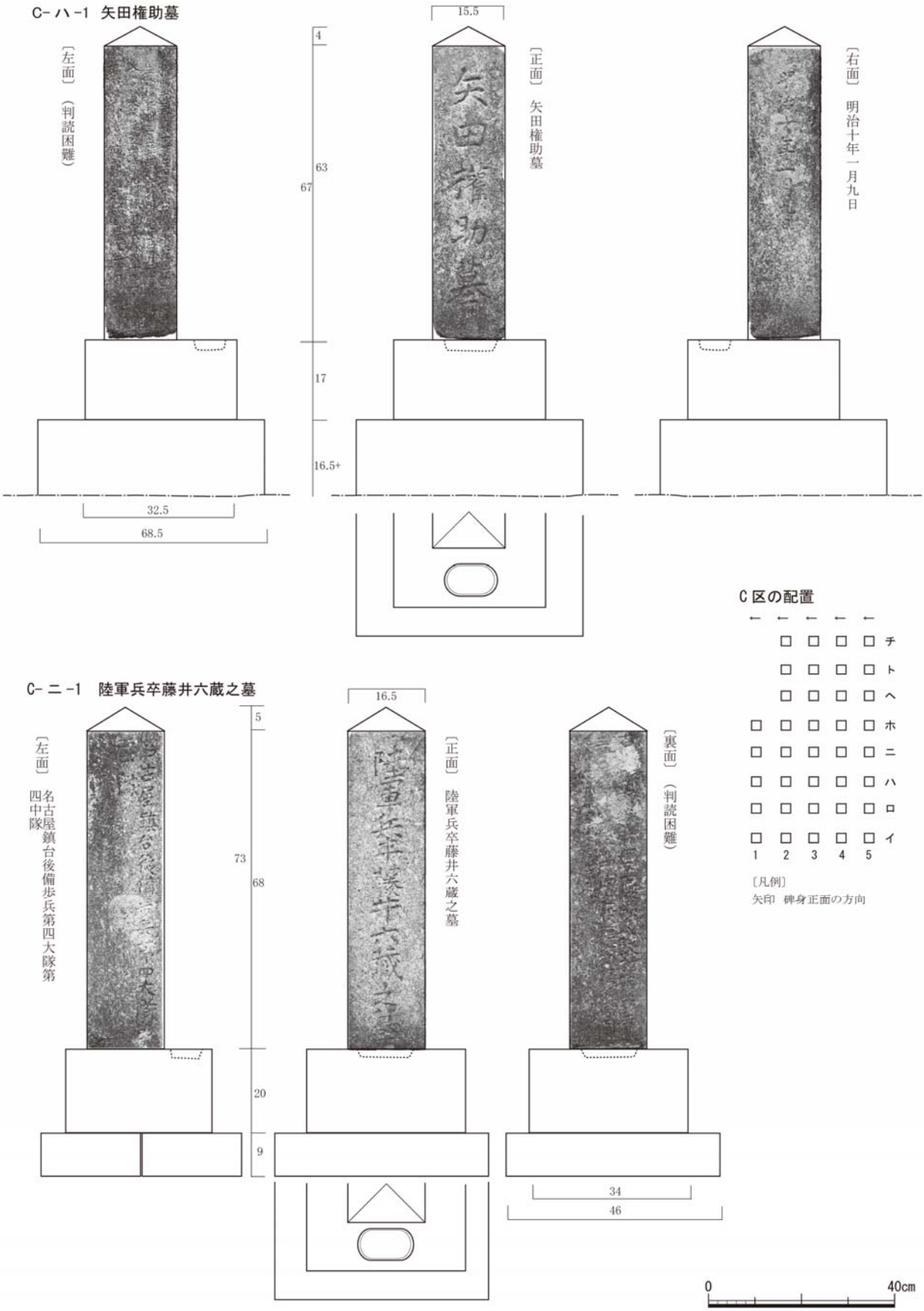


図4　C区の配置と墓碑例

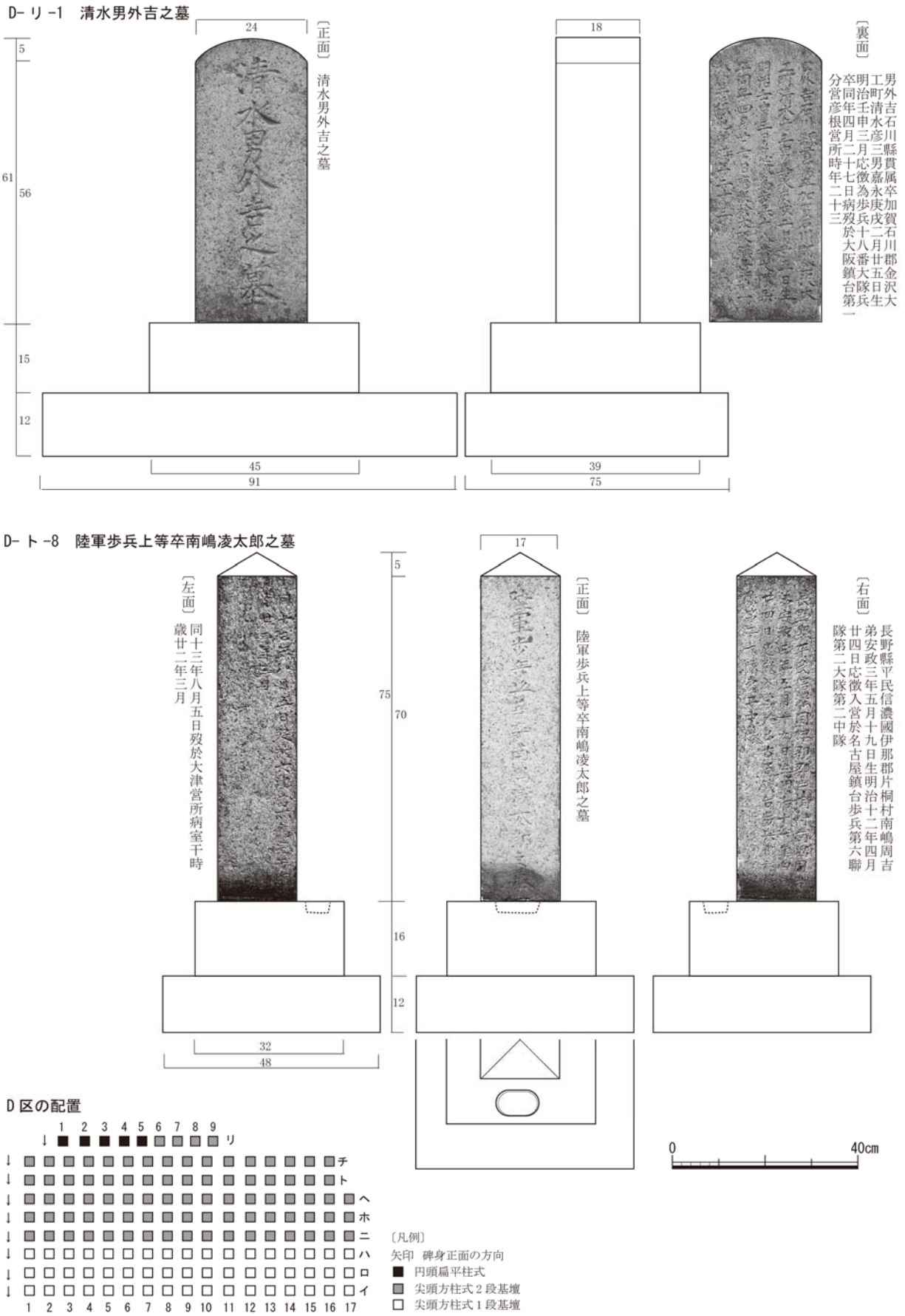


図5　D区の配置と墓碑例

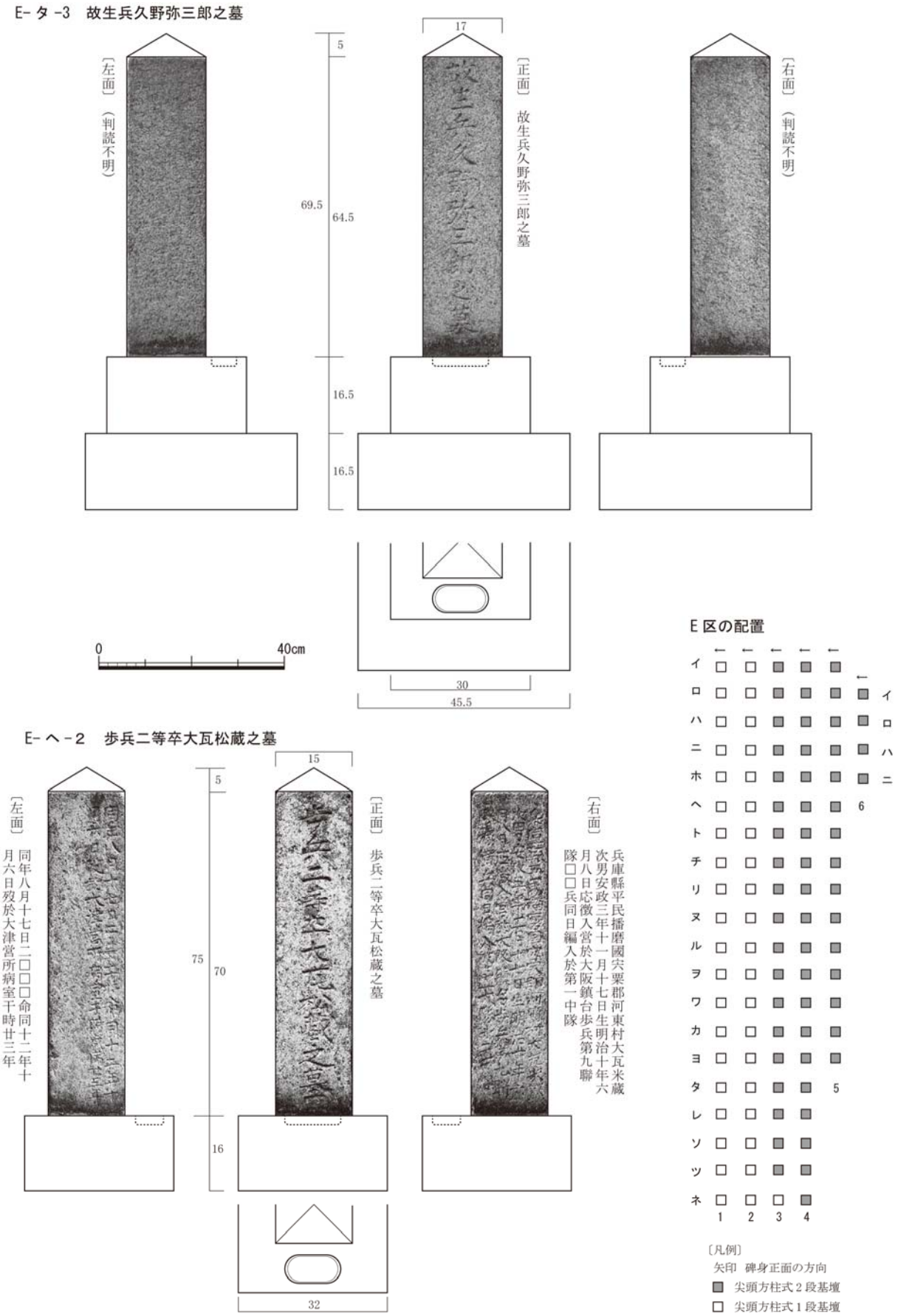


図6　E区の配置と墓碑例

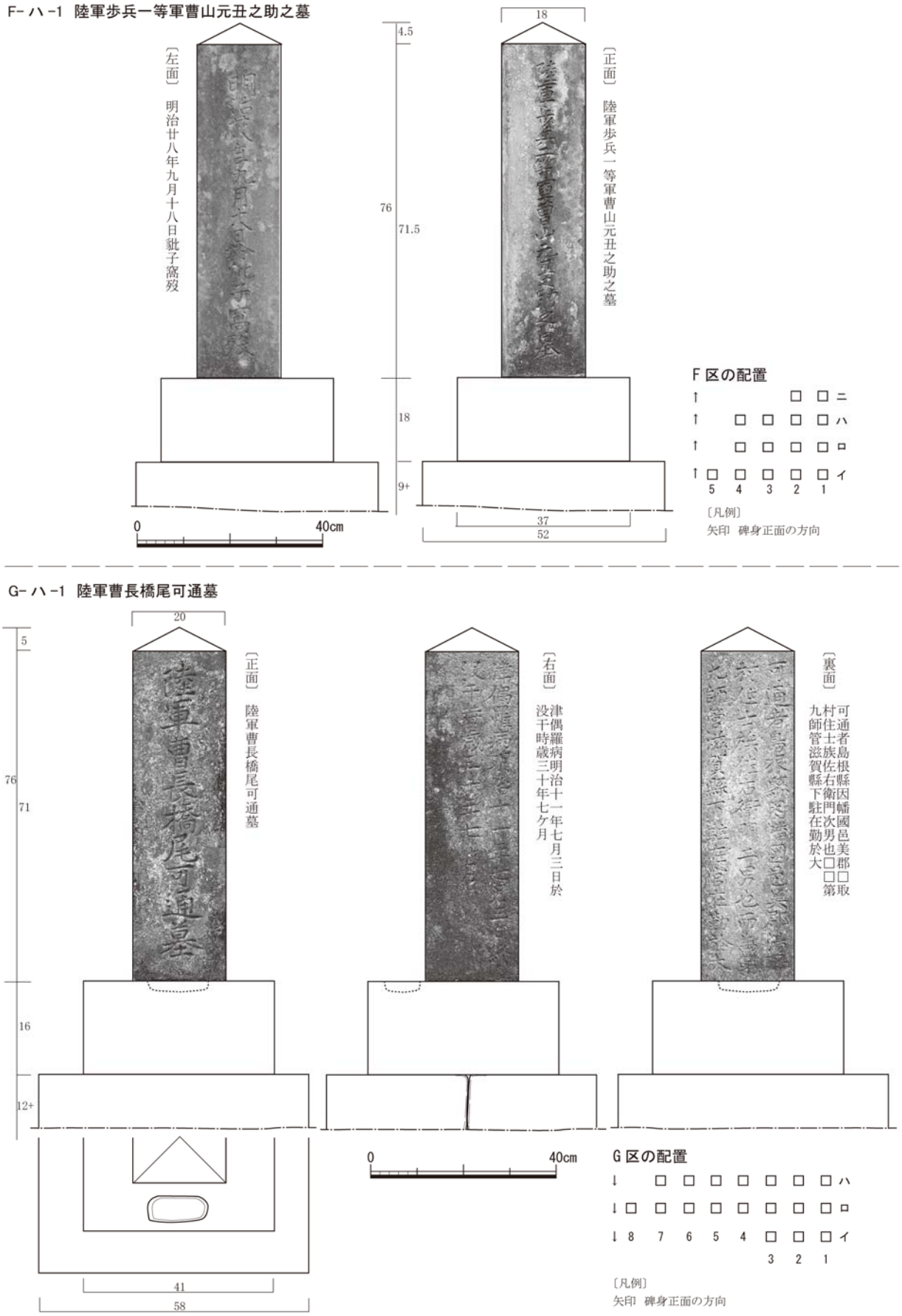
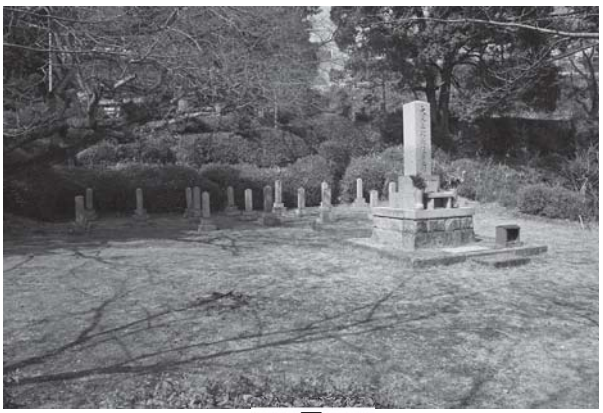


図7 F区の配置と墓碑例（上）・G区の配置と墓碑例（下）

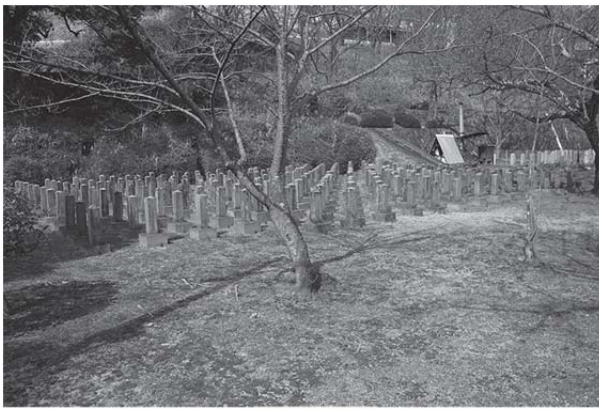
表2　H区墓碑一覧

番号	碑銘（／：改行）				型式		石質	
	正面	左面	裏面	右面	碑身	基壇	碑身	基壇
1	陸軍歩兵大尉正七位勲六等浅野典則之墓	大正九年二月十七日歿享年二十七	忠孝院規□典則居士	父浅野典五郎建之	尖頭方柱式	2段基壇	花崗岩	花崗岩
2	陸軍歩兵少尉正八位田中幸太郎之墓	明治二十八年二月十八日歿			尖頭方柱式	2段基壇	砂岩	花崗岩
3	陸軍歩兵大尉従七位勲五等功五級徳大寺亀一墓	明治三十七年八月二十二日於旅順戦死	徳大寺家		尖頭方柱式	2段基壇	砂岩	花崗岩
4	陸軍歩兵大尉従七位勲五等功五級伏木徳太郎墓	明治三十七年八月二十四日於旅順戦死		伏木敏子建之	尖頭方柱式	2段基壇	砂岩	花崗岩
5	陸軍歩兵大尉正七位勲六等松浦文夫之墓	明治二十八年十月廿九日於清國盛京省大狐山歿			尖頭方柱式	2段基壇	砂岩	花崗岩
6	陸軍二等軍醫正正六位勲四等村治重厚之墓	村治敏男建之	大正三年十二月二十一日歿　享年七十有三		尖頭方柱式	3段基壇	花崗岩	花崗岩
7	陸軍歩兵中佐従五位勲四等井戸順行墓		君初稱小太郎父藤井清三郎母藤井氏長州萩人世仕毛利候君幼而□悟出□□井氏年十五入／□城□刻苦四年少學並進時海内多事藩論興分為勤王佐幕二□君断乎十唱勤王脱身赴長州／改姓井戸入遊撃軍軍監高杉晋作一器之担□謀従事兵馬之間有年維新之□□伏水鳥羽／屢奏□功□當以食禄明治三年入大坂青年舍四年任陸軍大尉五年徙東京鎮台十五番大／隊長任陸軍少佐叙正七位六年叙従六位九年徙仙臺鎮臺補□第五聯隊一大隊□□當所／司令官十三年叙勲五等十五年補東部監軍部參謀十六年任陸軍中佐補第九聯隊大津営／所司令官十九年叙勲四等二十年叙従五位蓋異數是歳三月九日病卒享年四十七配梅澤氏／無子君為人剛邁潔深沈果断其過入渾厚不見圭角情好甚治夙有名望隊伍樂為其用云葬干／江州志賀郡山上口建石以表之		円頭扁平柱式	2段基壇	花崗岩	花崗岩
8	陸軍歩兵少佐従五位勲四等中山充藏墓	明治三十四年二月六日享年五十三卒		山口縣中山四郎建之	尖頭方柱式	3段基壇	花崗岩	花崗岩
9	陸軍歩兵少佐従五位勲四等功五級奈良鉞治郎墓	明治三十七年八月二十二日於旅順戦死		岡山縣奈良正彦建之	尖頭方柱式	2段基壇	花崗岩	花崗岩
10	陸軍歩兵少尉従七位勲五等田中忠琢墓		幼字稱防介山口縣長門國阿武郡江／向村住士族九右衛門四男也藩政之／時入奇兵隊屢従軍後奉職於陸軍以／中尉在歩兵第九聯隊偶罹病明治廿／年七月十七日終没干時歳三十七年九月		円頭扁平柱式	2段基壇	花崗岩	花崗岩
11	陸軍歩兵大尉正七位勲五等谷村元吉墓	明治三十八年七月十七日歿於清國安東縣陣中		谷村常三郎建之	尖頭方柱式	2段基壇	砂岩	花崗岩
12	陸軍歩兵少尉正八位君六等功五級村治昭墓	村治昭君墓誌銘　　陸軍中将正四位勲一等功二級安東貞美撰文／君名昭膳所人陸軍二等軍醫正村治重厚第二子也母柴田氏以明治十六年二月生長而／入陸軍士官學校卒業三十七年三月任少尉補第九聯隊附此歳征露之師既興四月十四／日以第三中隊第一小隊長従軍上征途五月二十六日金州南山之戦指摩部兵肉薄敵壘／左膊負銃創入病院在尊猶思戦裕樹勃々不能禁退院裏創而起六月十五日属我旅團戦／於得利寺挺進衝堅□弾丸苯身不少摧戦本團之逞捷略其功最多爾交轉戦諸方八月／	三十日首山堡攻撃之時奮闘超衆攘却敵之逆襲□四翌三十一日早暁於後冷嘲河子前／額受銃創遂歿享年二十有二即日叙功五級授金鵄勲章并叙勲六等授單光旭日章君為／人資性温厚志操堅確出則主忠信入則盡孝□□□人交専以義侠之上下皆属望敬受□／深訃至之日莫不歎惜者洵是有為之青年将校□□軍人之亀鑑也乃建碑於其墓地□事／蹟概要以傳不朽焉銘曰　麓此湖山　鎮護毅魄　□□孔昭　風清月白／明治四十年二月　陸軍歩兵大佐従五位勲三等功三級　中村□一書		尖頭方柱式	2段基壇	砂岩	花崗岩
13	陸軍歩兵中尉従七位伊藤兼太郎之墓	明治二十八年五月七日於清國盛京省沙家屯歿			尖頭方柱式	2段基壇	砂岩	花崗岩
14	陸軍歩兵少尉正八位勲六等功五級鎌倉誠一墓	明治三十七年九月六日／於遼陽戦死		鎌倉賢秀建之	尖頭方柱式	2段基壇	砂岩	花崗岩
15	判別困難				円頭扁平柱式	1段基壇	花崗岩	花崗岩
16	陸軍大尉南保一義之墓				円頭扁平柱式	1段基壇	花崗岩	花崗岩
17	陸軍歩兵中尉従七位宮田金之助墓	實兄久一郎建之		大正七年十月三十日歿	尖頭方柱式	2段基壇	砂岩	花崗岩
18	陸軍歩兵大尉従六位勲四等稲垣伊右衛門墓	稲垣とら建之		鐵心院鮮光道嘒居士／大正六年四月二十六日歿	尖頭方柱式	2段基壇	砂岩	花崗岩
19	陸軍少将正五位勲三等功四級草場彦補之墓	明治四十五年五月　男辰巳建之	福岡藩士草場傳斎之長子嘉永二年五月十日誕生戊辰之役属福岡藩遊撃隊／戦干上野東叡山及武州青梅等以功賜尾装銃并胴乱明治五年入陸軍教導團／翌年転入士官學校七年任陸軍少尉誠補八年陸軍少尉十年西南之役属廣／島鎮臺□征轉戦各所陣中任陸軍中尉平定後以功叙勲六等賜年金七拾圓十／年任歩兵大尉経中隊長旅團參謀等二十一年任歩兵少佐二十七八年之役以歩兵第八聯隊大隊長□征次轉民政部長後任歩兵中佐補歩兵第九聯隊長	凱旋之翌年討伐台湾士匪以功勲三等賜旭日中綬章及年金三百六拾圓三／十二年任歩兵大佐超四年入後備役三十七八年之役更任後備第六旅團長属／鴨緑江軍有殊功任陸軍少将凱旋後叙功四級賜金鵄勲章并年金五百圓功就／名遂関□干滋賀縣膳所四十五年一月五日病歿齢六十四因遺言葬干大津陸／軍墓地改名／誠心院釋秀彦居士	尖頭方柱式	2段基壇	花崗岩	花崗岩
20	故陸軍歩兵中佐従五位勲四等西田源吉墓	昭和五年八月二十九日歿　西田隅建之		大魏院忠山源孝居士	尖頭方柱式	2段基壇	砂岩	花崗岩
21	草場榮子墓	陸軍少将草場彦補妻／専心院釋負榮大姉	大正十三年九月十二日歿		円頭方柱式	2段基壇	花崗岩	花崗岩
22	伏木胤子墓		大正十一年二月十日歿	陸軍歩兵大尉伏木徳太郎妻／遺孤敏子建	円頭方柱式	2段基壇	砂岩	花崗岩
23	中村節郎墓	中村定吉之長男		明治三十五年二月二十五日□	円頭扁平柱式	2段基壇	砂岩	花崗岩
24	中村　男墓	中村定吉之三男		明治二十八年六月三日	円頭扁平柱式	2段基壇	砂岩	花崗岩
25	今屋花子之墓	明治四十三年六月二十二日死／當年一才			円頭扁平柱式	2段基壇	砂岩	花崗岩
26	塩川文子墓			明治四十四年一月九日歿	円頭方柱式	2段基壇	砂岩	花崗岩
27	西田芳子墓	明治四十四年二月十七日歿			円頭方柱式	2段基壇	砂岩	花崗岩
28	幽夢水子	福嶋縣士族牛渡三男		明治廿七年十一月十五日	三角頭扁平柱式	2段基壇	砂岩	花崗岩
29	能受院妙道日喜大姉		福嶋縣／陸軍歩兵少佐正六位勲四等牛渡六郎長女／明治三十二年四月二十八日歿		円頭扁平柱式	2段基壇	砂岩	花崗岩
30	草場三千雄墓		大正二年七月二十三日死		円頭方柱式	3段基壇	砂岩	花崗岩



Ａ区

Ｅ区

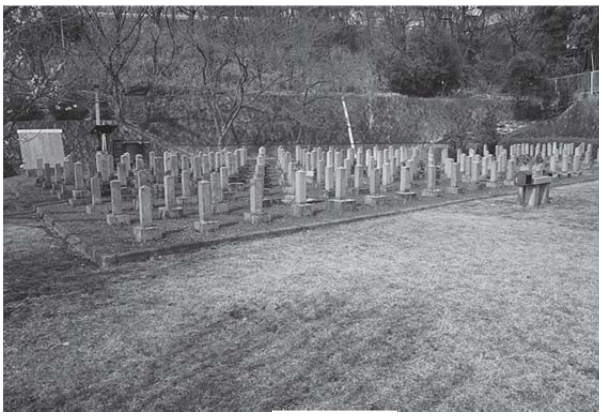


Ｂ区

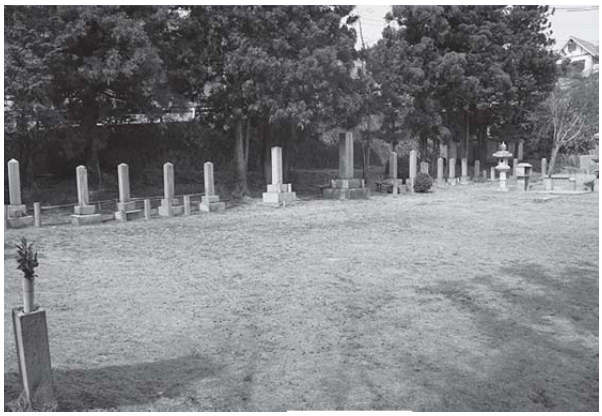
Ｆ区

Ｃ区

Ｇ区



Ｄ区



Ｈ区

写真１　各グループの現況

3.　陸軍大谷射撃場

◆場　所　大津市大谷 1 番から 5 番までと大谷 11 番から 13 番まで

◆現　況　住宅地　乗馬場

◆遺構の状況

大津市大谷にあった歩兵第九連隊の大谷射撃場は、現在そのエリアがほとんどそのまま住宅地になっている。戦後米軍撮影の空中写真にある縦の長いエリアがその主要部分で、右に枝分かれしたエリア(現在の大谷 7 番から 10 番)は畑地であったと考えられる。北の標的あたりからはさらに奥に現在乗馬場の敷地になっている付属地部分があり、やや右斜めに折れるように多数の陸軍の境界標が周囲を巡っている。大谷 13 番の宅地東側の公園・広場(図 1 下)の周縁にも陸軍の境界標が集中して配置され現存している。また乗馬場東の 20m弱の石垣も射撃場時代のものの可能性がある。どちらも官山の中に新たに陸軍のエリアが食い込むように設定されたため、内務省との境界を明示する必要があったのだろう。大谷 13 番東の公園・広場も形状から射撃場用地と思われるが距離が短く、射程の短い射撃用に用意された可能性がある。ただ空中写真では草が茂って射撃場の体を成していないため、かなり早い段階で使用放棄されたと考えられる。

現在乗馬場になっている標的北の付属地部分には長等公園から続く道(現東海自然歩道)からの分岐が今より東寄りにあったようで、東斜面に入口の門柱と思われるヒンジのついたコンクリート柱(図 2)が二本横倒しにされている(写真 4)。第九連隊からの道と射撃場入口は大谷駅側ではなく、山側のこちらがメインだったと推定される。

一方射撃場主要部の方は、幅 60m長さ 600m程で八割以上が民有地(畑地)であったために明治 9(1876)年に陸軍省によって買収の措置が採られている。ただそれでも大谷は「距離不充分ニテ此余延伸難相成地勢ニ付」という理由で明治 17(1884)年に皇子山、山上村付近の土地買収が申請され、別の射撃場が造成された。『歩兵第九聯隊史』(帝国聯隊史刊行會 1918)には明治 21(1888)年 6 月に「皇子山射撃場開設」とある。大谷の距離の短さはどうやら右の畑地に住民が出入りするため、最大でも奥の標的から 200m弱程度しか射撃距離が取れなかったことによるものらしい。このためか明治 24(1891)年に一旦大谷は使用が中断されている。

しかし皇子山射撃場にも住民の生活圏に隣接という問題点があったため、大正時代には大谷が再使用され、大正 14(1925)年の軍縮と第九連隊の京都移駐の際、防衛研究所の資料では「軍備整理ノ結果、使用ニ便ナル射撃場ニ限リ修築」の方針で「大谷・山上(皇子山)」の修築予定が「大谷」のみの改修になっている。しかも同経費で「工事ノ程度ヲ向上ス」とされている。これで大谷射撃場の設備が本格的に整備され、発射場も 100m後退させて射撃の距離を伸ばしたようだ。右に枝分かれしている民間の畑地へは危険防止のための新道が作られたらしく、空中写真では細い道が通じているのが確認できる。

その後昭和になって大津に残っていた連隊の第三大隊の満州派遣の後、大谷は軍の手を離れて「国防協会」の施設になり、在郷軍人や中学生、大学生の射撃訓練に使われている。戦後連合軍に接収されたが民間団体に返還後、1960 年代末から宅地開発が進んだ。(水谷)

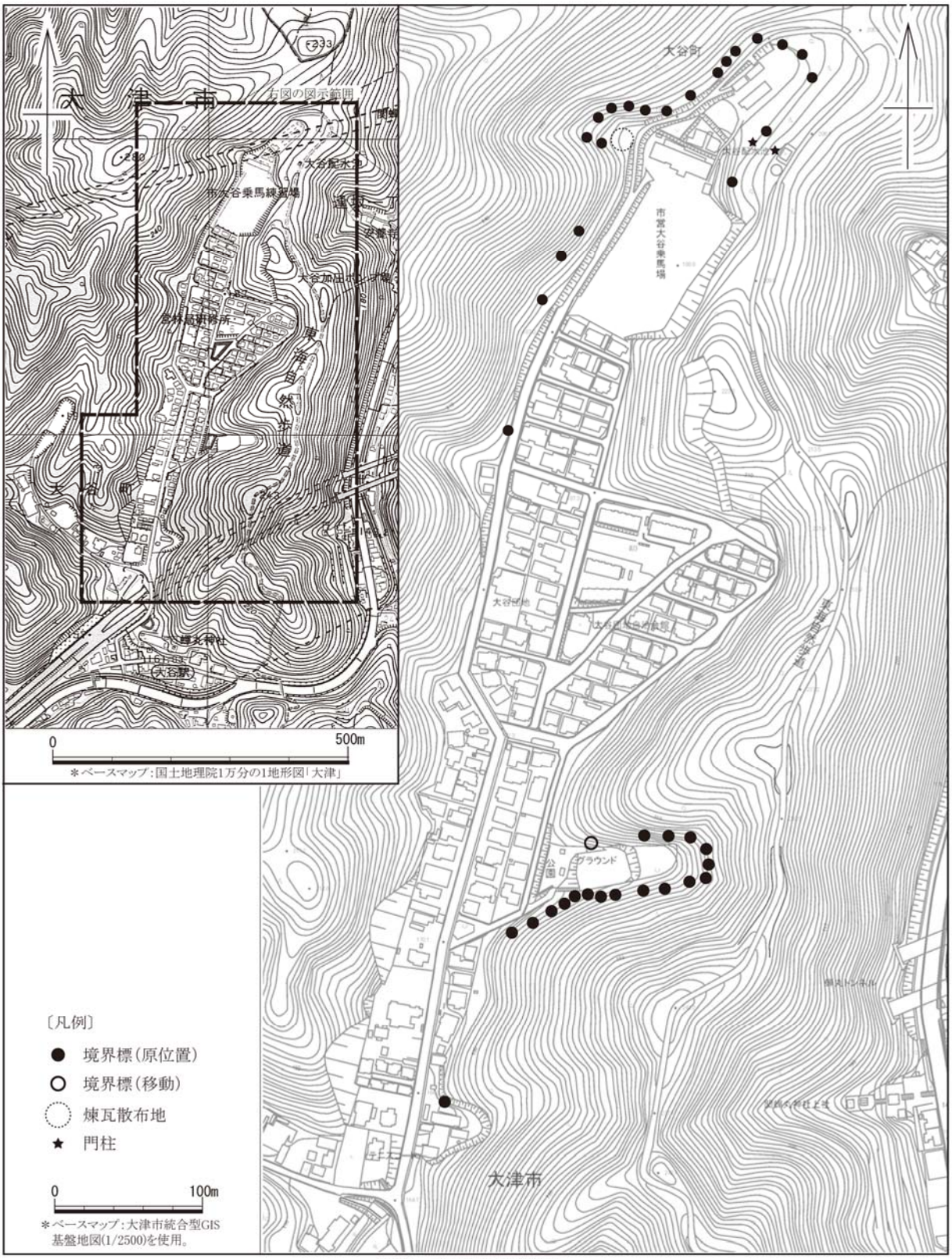

大津市
右図の図示範囲
大谷駅水池
市大谷乗馬練習場
大谷加圧ポンプ場
豊林庁東移所
東海自然歩道
大谷町
大谷駅
0
500m
＊ベースマップ：国土地理院1万分の1地形図「大津」
大谷町
市営大谷乗馬場
大谷団地
公園
グラウンド
大津市
〔凡例〕
境界標（原位置）
境界標（移動）
煉瓦散布地
門柱
0
100m
＊ベースマップ：大津市統合型GIS基盤地図(1/2500)を使用。

図1　境界標の位置

写真1　境界標（1類）

写真3　境界標２類

写真2　境界標の設置状況（左：国有林境界柱）

写真4　門柱の遺存状況

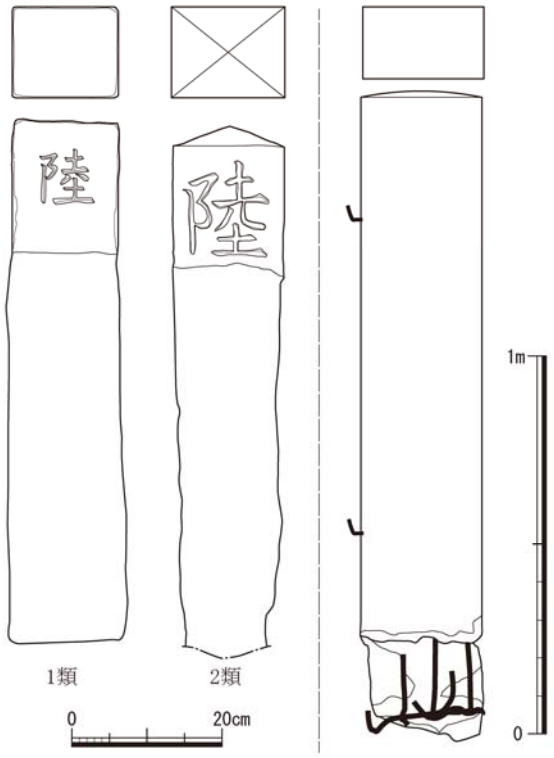


図2　境界標と門柱（略測図）

4.　大津海軍航空隊

◆場　所　　大津市際川１丁目

◆現　況　　陸上自衛隊大津駐屯地

◆遺構の状況

際川集落の東側、際川添いの湖岸に位置した大津海軍航空隊は、現在陸上自衛隊大津駐屯地になっている。

航空隊の敷地は、かつての際川河口部に位置する。開隊にあたって際川の河道と西近江路を迂回し、河口部に形成された三角州を利用して建設した。敗戦後は占領軍のキャンプ B 地区となり、昭和 34 (1959) 年には陸上自衛隊が移駐したため、現在残る大津航空隊時代の遺構は少ない。

平成 29(2017)年現在では、水上機格納庫 1 棟、教場(現広報館)1 棟、滑走台 3 基、コンクリート製施設 2 棟、用途不明コンクリート製基礎 3 基、コンクリート製桟橋 1 基が残る。

①水上機格納庫は、南側の滑走台横に 2 基、北側の滑走台横に 2 基あったが、現在は 1 基のみ残る。現存する格納庫は鉄骨構造で外壁は後年に改修されている。

②現在広報館として使用される施設は教場であった。外観は新装だが軸組や小屋組は当時のものと考えられる。昭和 21(1946)年の空中写真によって確認できる。

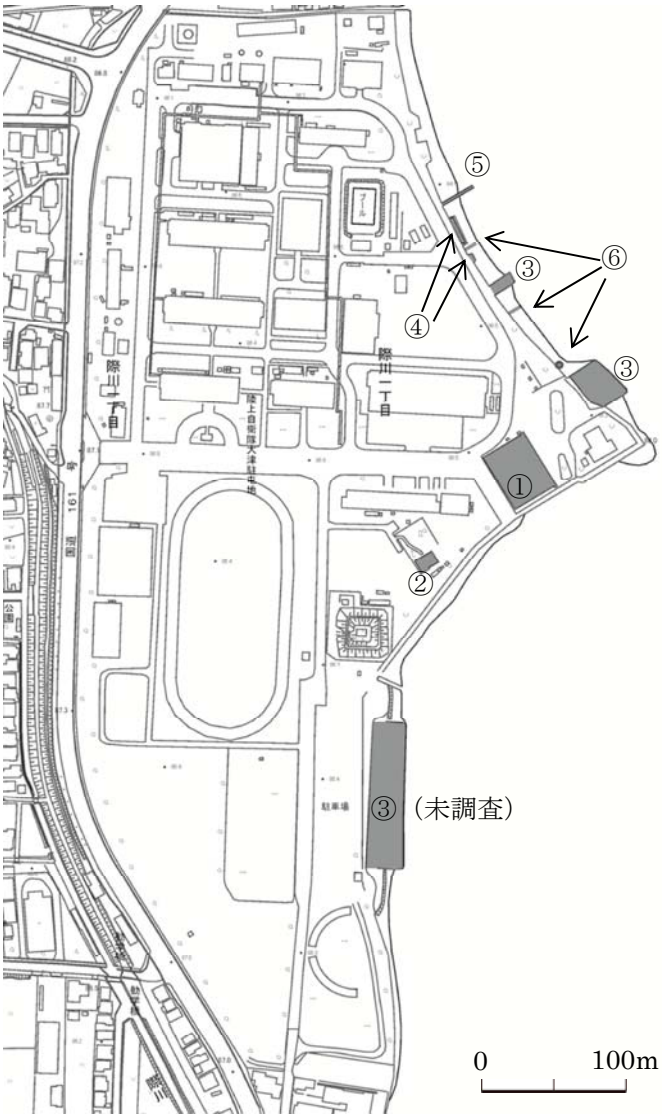
③滑走台は、大津航空隊時代に造られた 3 基が残る。駐屯地の南部にある最大の滑走台は立ち入れなかったので、北部にある 2 基の滑走台の調査を行った。ひとつは現存する格納庫の前にあり、幅約 30m、水面までの長さ約 20m、傾斜角度 4～5°である。もうひとつは、近年まで残っていた格納庫の前にあり、幅約 8m、水面までの長さ約 15m、傾斜角度 4～6°である。

④コンクリート製施設は湖岸堤に沿うように 2 棟あり、粗石コンクリートのような小石を多く含む壁体で、粗雑な型枠を用いて築造されたことが外壁の型枠痕跡から確認できる。1 棟は湖岸側に開口部が存在するが、もう 1 棟は側面に入口があり、その前に L 字型のコンクリート障壁が残されていた。2 棟とも窓の無い部屋で、かつては周辺に遮蔽物が存在しなかったことから、空襲時における待避施設のようなものと想像する。

⑤コンクリート製桟橋　現在滑走台の北側に残る。昭和 22(1947)年の空中写真で存在が確認できる。現在、先端に階段がついているが、空中写真により、かつては階段の先に木造の桟橋があり、湖に向かって伸びていたことを判読した。

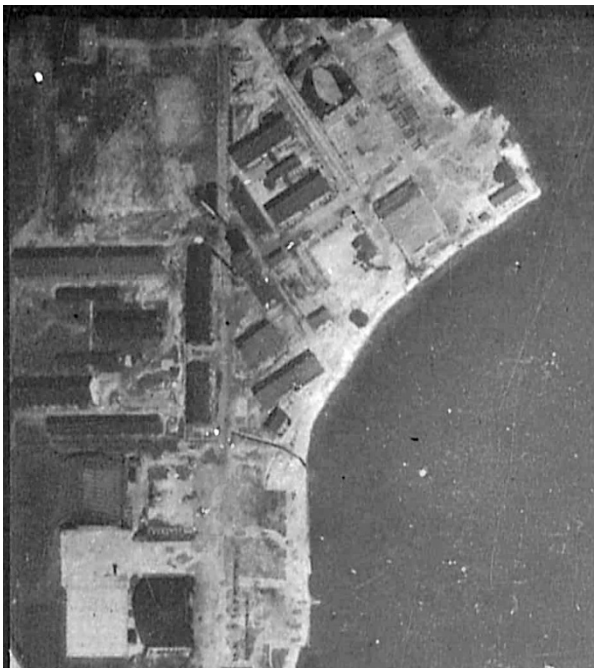
⑥用途不明コンクリート製基礎は円形のものと複数の柱基礎で構成されたものがある。
円形の基礎は直径約 6mで滑走台の横に位置する。敗戦後の大津航空隊を撮影した写真に同様の姿が存在(『93 式中等練習機 世界の傑作機 No.44』文林堂 1994)することから、当時から存在した施設と思われる。現在は波による浸食で湖側へ傾斜しているが「世界の傑作機 No.44」や空中写真では、水平に設置されていることがわかる。

柱基礎は 2 箇所残り、湖上へ突出した施設と考えられる。昭和 22 年の空中写真では既に失われているが、桟橋のような施設の柱基礎と考えられる。(神保)



位置図〔大津市統合型 GIS 基盤地図(1/2500)を使用〕

米軍撮影 M661-1-27



米軍撮影 M275-A7-45

写真１　格納庫

写真２　広報館

写真３　滑走台